研究区分	教員特別研究推進　教育推進

研　究 テーマ	プロトコールに基づいた薬物治療管理能力を醸成する実務実習				
研究組織	代　表　者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	賀川　義之
	研究分担者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	伊藤　邦彦
		所属・職名	薬学部・准教授	氏名	宮嵜　靖則
		所属・職名	薬学部・准教授	氏名	井上　和幸
		所属・職名	薬学部・講師	氏名	内野　智信
		所属・職名	薬学部・講師	氏名	大澤　隆志
		所属・職名	薬学部・講師	氏名	辻　大樹
		所属・職名	薬学部・助教	氏名	谷澤　康玄
	発　表　者	所属・職名	薬学部・教授	氏名	賀川　義之

講演題目

医療コミュニケーション能力と薬学的介入能力を醸成する薬剤師外来での実務実習

研究の目的、成果及び今後の展望

【目的】令和 4 年度には病院実務実習において実習生に ICT を用いた事前の綿密なシミュレーション教育を行い、実習生の医療コミュニケーション能力、病態把握力、処方提案力を培う。上記の基本的な能力を身につけた後、病院実務実習で実際のがん患者等に外来面談と指導を行うことで実習生に実践的な薬剤師力を修得させる。評価結果は実習生にフィードバックすることで形成的に実習生の薬剤師外来に関わるパフォーマンスを高めることを目的とする。

【成果】薬剤師外来に関連して、1)入院前の薬剤師問診、2)外来化学療法センターでの指導、3)外来内服抗がん薬服用患者に対する指導を実習生に行った。1)入院直前の薬剤師問診では、薬剤師外来において電子カルテで内服薬の投与歴や患者情報を時系列で収集した上で、術前中止薬の服用状況を患者から聴き取ることを学んだ。血液凝固阻害薬の中止理由を患者に説明し、中止状況を確認し、担当医へ報告する手順を学んだ。入院前の譫妄リスク評価は診療報酬上で加算されるが、ベンゾジアゼピン受容体作動薬の服用の有無、服薬状況を聴き取り、医療チームで共有することを学んだ。2)外来化学療法センターでの指導では、日帰り治療で抗がん薬を投与される患者を対象に投与薬の薬効や有害事象を説明し、抗がん薬の皮内漏出の徴候や留意点、好中球減少症発症や末梢神経障害など帰宅後の注意点を指導することを学んだ。3)外来内服抗がん剤服用患者に対する薬剤指導について、院外処方で抗がん薬服用患者に対して、院内の薬剤師外来において経口抗がん薬の薬効や有害事象を説明し、患者の懸念点などを収集し、院外薬局と連携することの重要性を学んだ。さらに、院外薬局の薬剤師と ICT 技術を用いた情報共有ツールとして外来化学療法患者向けの「かけはし」やカルテ情報を共有する「ふじのくにねっと」を説明し、病院薬剤師と薬局薬剤師が連携することで、院内・院外をシームレスにつなぐケアの重要性を学んだ。以上の実習を通して、患者や医療スタッフとのコミュニケーション能力を醸成し、薬学的介入能力を向上させることができた。

【今後の展望】今後は、ファーマシューティカル・ケア教育の拡充に向け、ICT 技術をさらに活用した上で、学内での実務事前実習と病院薬局実務実習をシームレスにつないで教育成果を向上させたい。